

平成 27 年度第 2 回香芝市都市経営市民会議 議事要旨

開催日時	平成 27 年 11 月 30 日（月）午後 2 時 00 分～4 時 00 分
場 所	香芝市役所 本庁舎 3 階 第 1 会議室
出席者	中川会長、平越副会長、麻生委員、石原田委員、乾委員、井上委員、奥山委員、関委員、中村委員、三岡委員、安田委員、吉井委員、吉村委員（計 13 名）
欠席者	粕井委員、萩原委員（計 2 名）
事務局	企画部長、総務部長、市民環境部長、地域振興局長、福祉健康部長、健康局長、都市創造部長、議会事務局長、教育部長、企画政策課職員
議 題	1. 香芝市人口ビジョンについて 2. 第 4 次香芝市総合計画 前期計画の進捗状況について 3. 「第 4 次香芝市総合計画 後期基本計画（素案）」及び「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」について 4. その他

1. 香芝市人口ビジョンについて

○案件の概要

第 1 回都市経営市民会議にて出た意見・質疑について追加資料及び修正資料の提示

○意見・質疑

- 第 1 回資料の人口ビジョン(P. 31)と内容が重複しているがどうか。
- 事務局) 調整後の資料を第 3 回会議に人口ビジョンの全体版を提示する。

2. 第 4 次香芝市総合計画 前期計画の進捗状況について

○案件の概要

38 の施策について、平成 21 年、25 年、27 年に実施した市民意識調査における重要度・満足度の推移及び総合計画の前半 5 年間に於けるめざそう値の進捗状況について

○意見・質疑

- 重要度・満足度の変化について社会的な事象等の影響を受けるとの話であったが、香芝市固有の変化について具体的な例はあるか。
- 事務局) 一例として、医療の充実に関して満足度が下がり重要度が高まっているが、これは市内病院が休院したことが要因と考えられる。現在、新たな病院の建設が進められていることから、開院後に改めて調査を行えば結果に改善が見られることも考えられる。
- 市民意識調査を 2,000 人に送付し、回収が 800 人程度と、送付数と回収数に差があるが、支障はないのか。
- 事務局) 統計学上、香芝市の人口であればおおむね 400 程度の回答があれば十分であるといえる。
- 市民意識調査は施策単位での調査となっているが、自治会や農業用水路などの施策にない問題はどこで回答されているのか。
- 事務局) 自治会については施策 30 「地域コミュニティの充実・醸成」、農業用水路については施策 26 「農業の振興」に含まれる。また、具体的な意見や問題については、市民意識調査の自由記述欄に記載が可能となっている。
- 総合計画においてめざそう値の目標値を下げた項目について、その理由を具体的な例を挙げて説明してほしい。計画を立てた時点での見通しに問題があったのではないか。

→ 事務局) 一例として、ごみのリサイクル率については目標の達成が見込めないため目標値を下げている。これは、指標としたリサイクル率は市の回収した資源ごみの量により算出されるが、民間の資源ごみ回収が増加したことにより、リサイクルされるが市の回収した資源ごみには含まれないため指標に反映されず、結果として数値目標達成が難しくなったためであると考えられる。

- 重要度・満足度のマトリクスに関し、タイプⅢ(重要度も満足度も低い)に含まれる施策がタイプⅡ(重要度も満足度も高い)にむけて推移するような施策展開が必要ではないか。現状、満足度は全体的に低い、重要度も満足度も高い施策を増やしていくことが理想である。

→このマトリクスは、市民が必要と感じていないが行政として実施すべき施策に関しては的確に表現されず、また重要度についても調査時点での市民認識になるため、中短期計画には利用できるが長期的な計画の根拠とするには支障がある。万能なグラフではないことは認識しておく必要がある。

- 施策の達成についてはおおむね優秀な成績である。後期基本計画についてもこのまますすめるように。

3. 「第 4 次香芝市総合計画 後期基本計画(素案)」及び「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)」について

○案件の概要

第 4 次香芝市総合計画後期基本計画(各論)及び香芝市まち・ひとしごと創生総合戦略の素案を示す。
第 1 回会議での質疑・意見に対する回答を示す。

- 待機児童の定義は、「保育所等利用待機児童の定義(2015 年 1 月 14 日厚生労働省通知)」に従う。
- 企業立地を進める具体的な業種は、今後条例・規則で規定していくが商業施設・病院・学校・ホテルを考えている。

○意見・質疑

- 他自治体の総合戦略では、「新しい人の流れ」とはインバウンド等を含む「観光」をさしているケースも多いなか、香芝市では具体的な事業レベルで記述があるにとどまっているのはなぜか。また、「新しい人の流れ」をつくる際に、果たして現在の施策が適切であるのか。施策 5「広報の充実による市内外への PR 活動」は、どういった層に対しての PR 活動を行っていくのかビジョンが見えない。施策 6「雇用環境の充実」は、目標 1「雇用の充実」に含めるほうがよいのかもしれない。施策 7「ブランド力の向上」は、地域ブランドの認定制度の創設等内容に厚みを持たせる必要があるのではないかと。また、K P I の設定に関し、指標選択や目標値設定の根拠について整理をもとめる。
- 総合計画には 38 の施策があり、総合戦略には 15 の施策があるが、総合戦略に掲載されているものが最優先の施策であるということか。そうであれば、香芝市の最優先に掲げる施策はこの 15 本でよいのか。また、総合戦略の施策 4「女性活躍の推進」についての具体的なイメージがわからない。

→ 事務局) 総合戦略は最優先の施策が掲載されているものではなく、あくまでも人口減少の克服や東京への人口一極集中を防ぐため、「地方創生」について特化した計画である。

- 総合戦略の将来目指すべき姿を総合計画と同じ「笑顔と元気!! 住むなら かしば」と設定すると、住宅都市としての色が強く出るため、企業誘致の魅力アップにはつながらないのではないかと。また、4 つの基本目標は国に対応させて設定しているが、掲載する順番については再検討の余地があるのではないかと。

企業誘致について、平成 31 年度での企業誘致件数の目標値を 7 件として、推移等それ以外のデータが示されていない。

→ 事務局) 平成 23~32 年度の 10 年間をかけて目指すべき姿として「笑顔と元気!! 住むなら かしば」を掲げ、その枠組みの中で今回の計画も進めていくため、変更は難しい。

- 自治連合会規約による制限で、同じ市民でありながら基準を満たさないという理由で自治連合会に参加できない自治会がある現状を改善してほしい。
また、農業用水路管理の責任の所在を明確にしてほしい。これまで水路の清掃はボランティアとして地域で行っていたが、高齢化に伴いそれも難しくなっている地域もある。
- 農家が農業用水路の維持管理を行っているのは、営農環境を守るためのボランティアとしての面もある。香芝市には 1 m 以上の生活用水の排水路は無く、農業用水路を活用しており、水路は農業のみに使うものではなく、一般家庭においても雨水の排水などで利益を受けている。
- 事務局) かつては公共下水が整備されておらず、浄化槽からの排水と雨水が農業用水路を流れていた。現在は公共下水が整備されたが、雨水は農業用水路・家庭用水路の区別無く流れているため区域を分けることは難しい。また、周囲に農地が無ければ、その水路は農業用ではなく周辺住宅の雨水用となることから、清掃など維持管理は水路を利用される周辺の住宅の方々でお願いしたい。
自治連合会の件は自治連合会と調整し、別途相談できればと考える。
- 第 4 次香芝市総合計画の策定にも携わったが、今回計画では新たに企業立地などの産業振興施策が前面に出ている。既に意見として出ているとおり、マトリクスにおいてタイプⅢ(重要度も満足度も低い)の施策が非常に多い。このマトリクスから「様々な市民の意見」を読み取ることができるが、それを受けて香芝市がどういった方向性をめざしていくのかという根幹になる部分を明確に出してほしい。それを基に都市経営市民会議での討論を行いたい。
- 必要課題と要求課題の考えに近いといえる。市民が必要と感じていなくても実際には必要とせざるをえない施策の判別がしづらい。マトリクスを活用する際には注意する必要がある。
- 空き地・空き家について近年問題となっているが、総合計画には掲載されていない。住宅都市として発展し、流入人口が多い香芝市は、新しく流入してきた人には住みやすいまちかもしれないが、高齢化の進む昔ながらの地域においては住みにくくなってはいないか。駅のバリアフリーもすすめられているが、昔ながらの地域においては基本的な住環境すら満たされていない現状があるにもかかわらず今回提示された素案には記載がされていない。
- 事務局) 空き家については施策 10「良好な新市街地の形成」の「現状と課題」の項に記載している。
- 香芝市における空き家対策がどういったものであるのかが分からないためこの場での整理は難しい。再度検討し次回会議にて回答を求める。
- 総合戦略の施策体系図を見る限りでは内容が整っていると感じるが、具体的な内容を見たときに、果たして目標が達成できるのかが疑問である。香芝市が目標を達成する手法については更なる議論が必要ではないか。
- 道路事情が悪く、救急車の病院への搬送経路が極端に遠回りになっている地域がある。
- 事務局) 道路の整備は現在都市計画道路の計画を見直し、必要性が高い道から優先順位を付けて実施している。
- 出生率の向上を掲げる中で、今いる子どもや 2 人目、3 人目の子どもを生み育てることに対する支援はあるが、不妊治療等について市からの支援は無い。結婚年齢・出産年齢が上がる中、市独自の支援は難しいだろうが、国の助成金だけでないプラスアルファの支援がほしい。
また、香芝市は観光資源が少なく、観光地としては弱いと感じる。観光地がない分、商業施設等により人を呼び込むしかないと考えるが、香芝市は土地も無く税金が高いため近隣市町に流れてしまうと聞いている。
- 事務局) 市では不妊治療に対する補助は行っていないが、県では行っているので周知に努めていく。
- 国の方針に従って戦略の策定を進めているが、香芝市としての特徴は出せないのか。あれもこれもでは

なくメリハリのついた施策が必要ではないか。また、設定したそれぞれの K P I を達成したとして、施策の目的が果たせるのか。

- 素案に示された K P I を再度見直し、アウトカム指標へ設定しなおすよう再度検討し次回会議にて報告を求める。
- 駅前広場の整備を進めているが、その活用方法の模索が必要ではないか。総合計画の施策 1 1 「駅を中心とした拠点機能充実」において整備されていない駅を明記してもよいのではないか。また、市史編纂は総合計画に記載が無いが実施しないのか。
- 事務局) 未整備の駅は認識しているが、様々な事情により明記はしない。
市史編纂については、現在庁内にて検討組織を作り協議を行っている。
- 香芝市は、近年商工業の振興に力を入れて取り組んでおり、立て続けに新たな商業振興施策をすすめている。すぐに効果が出るものではないが、一歩ずつでも結果が出ればよいと考えている。
- 多くの委員から K P I の設定に対して意見が出ている。再度、その設定について整理を行う必要がある。また、今回会議における各委員からの指摘事項をもとに、再度見直した「第 4 次香芝市総合計画後期基本計画（素案）」と「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」を次回会議にて提示すること。

4. その他

第 3 回、第 4 回会議の予定について

以上